

# 横浜市学力・学習状況調査等の報告

## (1) 学力の概要と要因の分析

中・高学年は、横浜市の平均値と変わりが無く、平均的な学力です。低学年においてはやや下回っていますが、学力の二極化が解消されています。昨年度に比べ、学習意識や生活意識がかなり向上しています。横浜市の平均値を上回る学年が多いです。

これからも子ども一人ひとりが体験し表現する学習、つまり体験学習の充実や言語活動の充実が大切であると考えます。さらに、朝学習の充実を図り、下位層の学力向上を課題として学校全体で取り組みます。

## (2) 教科学習の状況

○国語科：関心は高いですが、文章を読み取る力や話すこと・聞くことと、特に書くことが課題です。  
○算数科：国語に比べ、どの学年も関心は、高いです。学年によってばらつきがありますが、数学的思考力や技能の向上が望まれます。

○社会科：知識・理解は、ほぼ市の平均的な学力をもっていますが、思考・判断・表現が課題です。

○理科：どの学年も理科に対する関心は高くなっていますが、思考・表現が課題として残ります。

## (3) 経年変化の状況と変化の要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

生活・学習意識においては、昨年度に比べてどの学年も上昇しています。学習意識においては、多くの児童が意欲的に学習に取り組んでいます。また、生活意識では、高学年になると自尊感情や規範意識がやや低くなる傾向がありますが、低学年は、9割以上の児童が、自分のことを大事に思う気持ちや約束や決まりを守ることを意識できています。全体的には、昨年度に比べ大幅に改善されているのが大きな変化です。相手意識も高い傾向にあります。相手の気持ちを考えたりすることの大切さを意識している児童が、かなり多くなっています。また、あいさつを進んでしていると思う児童の割合が多いことが分かります。あいさつ運動など具体的に取り組んできた成果だと思いますが、これからも指導・支援を継続していく必要があると考えています。

読書時間をみるとほぼ市平均の傾向ですが、図書室利用の割合が、どの学年もかなり高くなっています。これは、朝読書の取り組みもさることながら、学校司書の配置による図書室の整備や読書指導、学習資料提示が、功を奏していると考えられます。また、算数の技能面の向上が、朝学習や特別支援教育（とり出し）で効果を上げていますので、今後も継続して取り組みます。全体的傾向として昨年同様、自分の考えを友達の前で表現するなどの活動が不十分であり、子ども同士での学び合いの充実が望まれます。また活動を伴う教科に対する意欲が高いことから、体験活動の充実が必要であると考えています。

以上のような児童の実態を踏まえて、子ども一人ひとりが課題をもち、友達との関わり合いをもちながら、学習していく姿を追究してことを授業改善の視点としていきます。

## (4) 学力向上に関する指導の目標・方針（「中期学校経営方針」）

○子どもが学習の主体となり「わかる授業、楽しい授業」となるように、教育課程および授業の工夫改善を行い、自主的、自律的に学習に取り組む力を育成します。

○理科・体育科の研究をもとに、子ども一人ひとりが「自ら学ぶ」「共に学びあう姿」を目指して研究を推進していきます。

○教育的支援を要する子どものニーズを的確に把握し、アセスメント作成を継続し、中長期的、短期的な見通しをもって組織的に課題解決に当たっていきます。

## (5) 具体的な指導の方針

○体験活動の充実

授業の中で、子ども一人ひとりの活動を保証し、様々な体験活動を行い、自分の問題や課題をもって取り組めるように授業の工夫・改善を行います。

○言語活動の充実

授業の中で、子ども自身の中にある考えや思いを自分なりの言語活動（言葉・文字・図や絵、表・行動など）で表現し、互いに交流し学び合える授業の工夫・改善を行います。

○学年研究会やブロック別研究会の充実

週一回の学年研究会の設定や低学年・中学年・高学年ブロックでの研究会や研修会の設定を行い、計画的に実施します。